

(様式第4号)

上田市介護保険運営協議会 会議概要

1 審議会名	上田市介護保険運営協議会
2 日時	平成29年6月29日 午後1時15分から午後2時45分まで
3 会場	上田市役所本庁舎6階大会議室
4 出席者	佐藤委員、太田委員、小林委員、越田委員、橋詰委員、友松委員、寺島委員、田中委員、山浦委員、齊藤委員、関委員
5 市側出席者	酒井高齢者介護課長、小川地域包括ケア推進係長、馬場高齢者支援担当係長、斎藤高齢者支援担当係長、橋詰介護保険担当係長、小須田介護保険担当係長、上田高齢者支援担当係長、久保田高齢者支援担当係長、滝澤高齢者支援担当係長、和田介護保険担当
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	平成29年7月4日

協議事項等

- 1 開会（高齢者介護課長）
- 2 あいさつ
- 3 市長諮問
- 4 協議事項（佐藤会長の進行）
 - (1) 第7期上田市高齢者福祉総合計画策定について
 - (2) 平成28年度介護保険の運営状況について
 - (3) 平成28年度地域包括支援センターの運営状況について
 - (4) 平成28年度高齢者福祉事業の状況について
 - (5) 地域包括ケアシステム構築を目指して
 - (6) その他
- 5 閉会（高齢者介護課長）

審議概要

- (1) 第7期上田市高齢者福祉総合計画策定について
承認いただきました。
- (2) 平成28年度介護保険の運営状況について
(委員) 介護サービス受給者数、65歳以上の認定者(8,903人)のうち93.8%(居宅サービス5,550人+地域密着型サービス1,410人+施設サービス1,399人=8,359人)が実際に介護保険サービスを利用されているという計算でよろしいでしょうか。
(事務局) 受給者数は、各サービスの延べ人数になります。居宅サービスと地域密着型サービスを併用している方もいらっしゃいますので、実際にサービスを受けている人数は90%を下回ると思われます。平成27年度までは80%台だったが今回高くなっているのは、平成28年度から定員18人以下の通所介護(デイサービス)が居宅サービスから地域密着型サービスに変更になっているためです。
(委員) 理由は分かりますけれども、資料には数字を入れた方がいいのではないかと思います。ここ3

年で見ると 86%ぐらいです。今回は 93.8%。これを明示されるとより理解しやすいかと思います。

(事務局) はい。

(3) 平成28年度地域包括支援センターの運営状況について

(委員) 今回包括の自己評価表入れていただきありがとうございます。重点事業5項目、地域ケア会議についても、自己評価でやっていただいた方がよろしいかと思います。地域ケア会議は地域包括ケアシステム構築のためのひとつのツールとして非常に大切な会議になります。私も現役当時に多少関わりましたが、実際にはケア会議もどきが今もって多いかと思います。今後の課題として、包括の職員さん自身がケア会議をどういうふうに進めて行く、どういうふうに関与の課題を整理して解決していくというところがあまり理解されていないように感じますので、事務局の方で地域ケア会議のあり方とか、関係者の中でシンポジウムや研修会などで学んでいただく機会を設けていただきたいと思います。それから評価は5段階ありますけれども、3段階くらいでもよろしいのではないかと思います。どこにつけたらいいか、無難なところとして3.4を選択していることが多いような気がします。実際の包括の事業とか活動は、住民として色んな話が耳に入ってきます。本当によくやっていただいているところ、行政の下請け的な感覚、あまり熱意を持ってやっていないという苦情等も耳にします。土曜日も開所して、市のサロン事業の20万円補助の形ではなくて、住民の自主的な交流の場に出てきていただいている形もあります。機能強化の中で土日祭日の開所も謳われていますので、開所時間についても各委託先や地域の皆さんの意見も伺いながら検討していただければと思います。

(事務局) 地域包括ケア会議につきましては、評価項目としてはありますが、委員指摘のとおり重要な会議ですのもう少しうまい項目にしていきたいです。土日の開所につきましては各包括支援センターとも協議をしてみたいと思います。地域包括支援センターの所長や職員との会議は定期的に年に何回か開催していますので、先ほどの指摘のように一般の方から見て一生懸命でないという意見もいただいていることは伝えます。

(委員) 総合相談支援業務の自己評価項目に「相談があれば」という消極的に取れる表現が気になる。すごく大事な項目なので「相談には」など積極的な言葉が欲しいです。地域包括支援センターの名称がまだまだ周知されていない気がします。副題として「高齢者安心生活相談窓口の〇〇地域包括支援センター」というような名前が必要になってくるのではないかと思います。市長の諮問にもあった「深化・推進に向けて」という言葉からも一般住民の方に分かりやすい副題を付けたほうが伝わっていくと思います。

(事務局) 委員指摘のとおり、地域包括支援センターって何ということが未だに多いです。昨日あった高齢者クラブの研修会でも「地域包括支援センターって何？」というそのままのタイトルで職員の出前講座をやりました。他にも、認知症の記事を広報で扱う時など様々な場面で地域包括支援センターを周知しているつもりですが、まだ足りないというふうにも承知はしていますので、今ご指摘いただいた副題をつけるということも考えながらやっていきたいです。

(委員) 包括支援センターの人員費を職員数で割ると少ないところと多いところがありますが、一人当たりの人員費がなぜこんなに違うのですか。

(事務局) 各包括の職員数ですが、3職種以外に週何回かの実態把握だけの短時間のパート職員もいますので、単純に職員数で割ってこちらが高い、低いということでもないということをご理解いただきたいと思います。

(委員) 包括支援センターの職員です。包括支援センターへのご指摘色々あるんですけど、本当にごも

っともなことだと思います。地域ケア会議も色々ありまして、全体でやる大きい会議やお一人の高齢者について民生委員さんにも出ていただく会議があります。ご指摘のようにまだ十分には出来ていません。私たちのところもこれからどんどん取り組んでいきたいというところですが、包括10か所とも「包括だより」を出すようになりました。それを通じて住民の方に包括支援センターを知っていただくものにしていくように頑張っていくところです。地域へ出るということも、十分にできているところもあれば、私たちのようにこれから地域に出て行きたいということで、民生委員さんなど地域の方から訪問の要望のあったところだけでなく、1軒1軒訪ねる実態把握や地域のサロン、地域リハビリテーションに出たり、これから取り組むところのお手伝いをさせていただきたいと思っています。地域包括支援センターは地域包括ケアシステムの中で大事な役割があります。ご意見をいただいたことには取り組んで行く意欲はどこでもありますので、ご指導よろしく申し上げます。

(委員) 民生委員の立場で言うのも変なんですけど、世の中がおかしい。これだけ高齢化しているにもかかわらず、高齢者が地域包括という言葉すら知らない。私は民生委員10年目になりますけど、ようやく行って見て、そんなところがあったのかという実態がかなり多い。もっとひどいのは何しに来た、民生委員なんて知らない、包括に対してどこで俺のことを調べてきたとか、自分のことを考えているのかというようなレベルが正直なところまだかなりあります。最近特に感じるのが、高齢者夫婦の世帯でどちらかが主に家のことをやっていて、その方が事故などでできなくなると、本当に滅茶苦茶という感じ、民生委員や包括についてはようやくその段階になって知っていくという感じです。国のレベル、市のレベルではこういう会議で少しでも前に進めようとしているけど、後ろ髪を引っ張られる実情。どういうふうにしめていくのか、そして地域包括ケアシステム、平たく言えば在宅介護も言葉だけが走っていて、実情とすると悩んでいます。

(委員) 自己評価表は、自分たちが課題にしようとしていることはよく見えるのですが、あくまで自己評価なのでそれぞれの項目で評価する人の100点の考え方で変わってくるのかなと思います。自己評価も大事なのですが、市の担当者の方が同じ目線で第三者評価することも大事で、そうすると包括ごとの課題や優れたところが見えてくるのではないかと思います。

(事務局) 自己評価の後に、市の実地調査も予定しています。評価の高い点や低い点についてはどうしてそういう評価になるのか話し合いをして、フィードバックをしていく予定です。今回は間に合わなかったため、自己評価だけをお示しいたしました。

(委員) 自己評価についてですが、最後のグラフのところには出ていますが、評価をするにあたっての特記事項を書けるようにしていただくと皆さん分かりやすいと思います。包括支援センターが周知されていない中で、介護保険制度の改正や総合事業の住民説明会は、行政の説明がメインですが、行政も参加しながら包括がリーダーシップを取っていただき地域に顔を売るのがいいと思います。また、認知症支援の推進についても自己評価の項目に入れていただくようにお願いします。

(事務局) 参考にさせていただきます。

(委員) この自己評価は包括の全職員の意見ということなのでしょうか、まとめた人によっても変わってくると思いますが、会議をやってまとめたものということでしょうか。

(事務局) 基本は3職種他の職員に協議をいただいた点数になります。

(副会長) この評価項目は上田市独自のものですか、それとも全国共通のものですか。

(事務局) 全国共通はないので、他の市町村のものを参考にしながら項目を作っています。

(副会長) 自己評価が一番コストがかからない。共通項目でやることで、事業所も仕事がしやすく質が上がっていく、地域包括ケアシステムは介護保険事業の運営ではなくて、高齢者福祉、医療について幅広く活動できる力、非常に努力している人は目標設定が高いので、評価が低く、あまりよく分からず決められたことはやっている人は自己評価が高くなる。同じ自己評価で質を高めていくには各項目の評価基準を細かく定めると包括ごとの違いも見えてくる。その基準を行政側が提起したり、大学など第三者も連携しながら作っていけば、有効活用できるデータになると思います。

(事務局) ありがとうございました。ぜひそのようにしたいと思います。

(委員) 先ほど包括支援センターの知名度が低いという話がありました。実際そうなんですけど、知ろうとしないのが現実です。なぜかという、高齢者世代は人の世話になることは恥ずかしいという思いがあり、困っていることを表に出さない。地元の民生委員も非常に苦勞をしています。また、何でそんなことを知っているのだというプライバシーの問題もあります。ただ、そのくらいのことを知らなくてはケアは出来ない。実際にあったエピソードで、夫が救急車で運ばれて、妻が病院で「主人の状態はと尋ねたところ」、看護師から「患者個人のプライバシーはお話しできません」ということもあったくらいです。プライバシーがはき違えられている。上田の地域でも包括を利用すればいいんだけど知ろうとしないのが現実。啓蒙活動はやっている。新聞には出ない日がないくらいだし、広報にも載っている。行政でもやっている。何とかそれを理解して参加してもらいたい。自分が認知症であることを認めず拒否したという実態が、6月市議会での答弁でもあった。そういうことを承知した上でやらないと中々前へ進まない。これからは国からの財源も市の姿勢が問われる時代になります。机上の理論だけではないことを踏まえて下さい。

(会長) (3)平成28年度地域包括支援センターの運営状況について承認ということによろしいですか。

(4) 平成28年度高齢者福祉事業の状況について

(5) 地域包括ケアシステム構築を目指して

(委員) 上田市に紙おむつゼロ運動をしてほしいと前にもお願いしたんですが、紙おむつの補助をおしりふきとか体ふきに変えてもらえないでしょうか。

(事務局) 紙おむつ購入への助成ですが、紙おむつだけではなくて、委員おっしゃるように体を拭くタオルや尿とりパットや介護者が使う手袋も助成の対象にしています。

(委員) お願いいたします。

(会長) 承認ということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

(6) その他
なし